

鳥取番城遺跡 発掘調査報告書

2007. 11

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

鳥取番城遺跡 発掘調査報告書

2007. 11

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。

市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上野毛の国を中心として栄え、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

鳥取番城遺跡は、赤城山南麓の鳥取町に位置します。調査の結果、繩文時代前期の遺構や土器、中世の城館跡に伴う堀跡が発見されました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、期間の制約された中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年11月2日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 砂川次郎

例　　言

- トヨトリバージョウケイ、セイ
- 1 本報告書は、市有地売却に伴って実施した鳥取番城遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市鳥取町410番1
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 砂川 次郎）の指導のもとに、委託者 前橋市管財課（管理者 高木 政夫）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永 真弘）が実施した。
- 調査担当者 梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
- 梅田友寿・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
- 調査員 山口和宏（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成19年8月8日～平成19年9月15日
- 整理期間 平成19年9月16日～平成19年11月2日
- 5 調査面積 320m²
- 6 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設(株)が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては梅澤克典、その他は梅田が担当し、遺構・遺物のトレース…梅田・佐々木智恵子、遺物整理・実測…戸根、遺物洗浄・注記・接合…金子正人・須永 豊・戸根、写真整理・内業事務…須永が担当した。
- 8 発掘調査に参加した方々（敬称略）
- 北爪一郎　品川浪江　安立孝一　信沢弘造　飯沼聰

凡　　例

- 1 遺跡の略称は、鳥取番城遺跡（19C39）である。なお、本遺跡の名称であるが2つの遺跡（五反田遺跡・番城遺跡）にまたがっているため、新たに鳥取番城遺跡とした。「番城」は旧地籍の小字名である。
- 2 遺構名の略称は、次のとおりである。
溝跡…W　　土坑…D
実測図中の記号　S…石　P…土器
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡平面図…1/100　土坑…1/20　溝跡…1/40・1/100　土器…1/3・1/4　石器・石製品…1/3
- 4 本文中の（ ）は推定値、〔 〕は現存値を表す。
- 5 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋・大胡・渋川・鼻毛石」を使用した。
- 6 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点と照合済。
X 0・Y 0グリッドは日本測地系 座標値 X=46,924.000m、Y=-64,960.000mである。
グリッド4m間隔。水準点 B.M.=161.00m。
- 7 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
- 8 土層注記中の締は締まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。

目 次

はじめに

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境.....	1
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過.....	4
1 調査方針	4
2 調査経過	4
IV 層序	4
V 検出された遺構と遺物	5
1 縄文時代の遺構と遺物.....	5
(1) 土坑.....	5
2 中世以降の遺構と遺物.....	5
(1) 溝跡.....	5
(2) 土坑.....	6
3 まとめ	6
(1) 縄文時代.....	6
(2) 中世以降.....	7

挿 図

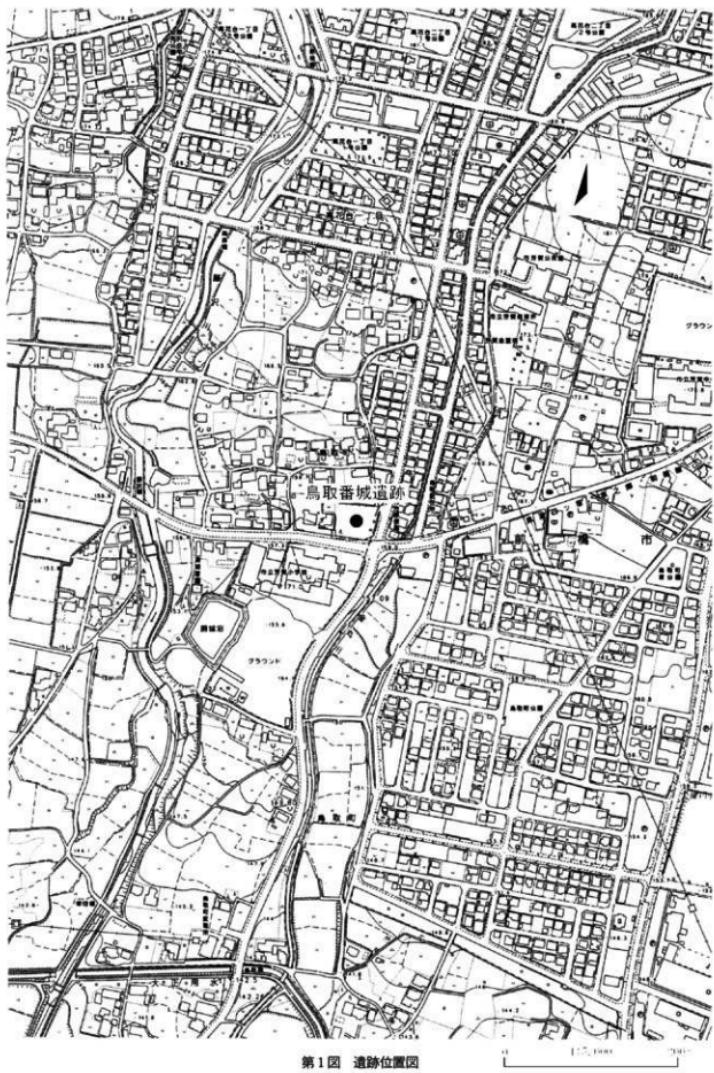
第1図	遺跡位置図
第2図	周辺遺跡図
第3図	基本土層断面図
第4図	鳥取番城遺跡全体図
第5図	D-1・2号土坑
第6図	D-3～6号土坑
第7図	W-1・2号溝跡
第8図	D-1・2・5号土坑、 W-1号溝出土遺物実測図

表

第1表	周辺遺跡概要一覧表
第2表	土坑（縄文時代）計測表
第3表	土坑計測表
第4表	遺物観察表（縄文時代）
第5表	石器観察表
第6表	土遺物観察表（中世以降）

写 真 図 版

- 図版1 鳥取番城遺跡全景、
D-1～6号土坑全景、
D-1・2号土坑遺物出土状況、
W-1・2号溝全景
図版2 D-1～3・5号土坑出土遺物
W-1号溝出土遺物



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯

平成18年度に前橋市より鳥取町の市所有地の売却について協議を受けた。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地（五反田遺跡と番城遺跡の2者にまたがる）に属する。このため、事前に試掘調査を実施し、遺跡までの深さや内容を確認する必要が生じた。平成18年11月16日に事業課である前橋市管財課から試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。これを受けた教育委員会では平成18年11月28・29日にかけて試掘調査を行った。調査の結果、繩文時代の遺構と中世の溝を検出したため協議を行った。現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした発掘調査について調整に入った。平成19年7月27日に前橋市長より発掘調査依頼書が教育委員会に提出された。教育委員会では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に調査依頼を行った結果、調査団直営では、実施困難であるとの回答を受けた。その結果、調査団は本調査を民間調査機関に依頼することとなり、依頼者である前橋市とも合意した。平成19年7月31日に調査団と前橋市の間で発掘調査に関する委託契約を締結した。調査団は民間調査機関であるスナガ環境測設株式会社と8月8日に業務委託契約を締結し、8月10日より土木機械による表土掘削を開始した。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の立地

遺跡の所在する鳥取町字番城は、前橋市の中心市街地から北東へ約5kmの位置にあり、昭和29年前橋市に合併するまで芳賀村役場の庁舎が在った。芳賀村は現在の勝沢、小神明、五代、鳥取、小坂子、嶺の7町に渡る行政の中心地でもあった。本遺跡の北に芳賀北部団地、南に芳賀西部工業団地と赤城南面の田・畑約2,340haを灌漑する大正用水が西から東流している。南東には芳賀東部工業団地や五代南部工業団地が造成されている。前橋市では、福祉、教育、文化、環境等の整備拡充を進め、その施策の一つとして、前橋工業団地造成組合による工業団地や住宅団地の造成があり、昭和35年以来多くの団地造成を行っている。その中で、芳賀北部団地の南に隣接する本遺跡は、日本百名山の一つ赤城山南麓火山斜面の緩やかで自然豊かな土地である。山麓に源を発する中小の河川が付近を南流し、部分的に開析谷を形成し舌状台地と谷地部を作っている。谷と谷の間の丘陵性の台地には、住宅団地や畠地が広がり、谷地部は水田が営まれている。この斜面の末端部は、本遺跡から2km南へ下がった主要地方道前橋赤堀線付近に当り、旧利根川の作った広瀬川低地帯に接し、この付近から関東平野が南に広がっている。

2 歴史的環境

本遺跡の近隣地域では、芳賀工業団地、住宅団地造成事業に伴う遺跡調査が昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて行われ、芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀東部団地遺跡）として多くの遺構・遺物が報告されている。芳賀北部団地遺跡では繩文時代前期から後期の堅穴住居跡や中期の敷石住居跡、奈良・平安時代の堅穴住居跡や中世の勝沢城跡の一部を検出した。芳賀西部団地遺跡では、繩文時代前期の堅穴住居跡や配石遺構を検出した。また、昭和10年の上毛古墳縦覧の記載漏れ古墳を32基検出し、芳賀地区には集中して100基近くの古墳が確認された。芳賀東部団地遺跡では、繩文時代前期の堅穴住居跡や中期末から後期前半の敷石住居が検出されている。その他報告されている遺跡から芳賀北曲輪遺跡では、繩文時代前期の住居跡や中期末から後期前半の敷石住居、倉本遺跡は弥生時代の堅穴住居跡や戰国時代以降

の環壕、端気遺跡群Ⅰでは弥生時代の方形周溝墓など、端気遺跡群Ⅱでは中世の環壕が検出されている。小神明遺跡群Ⅱ、西田遺跡からは古墳時代後期の円墳や帆立貝式古墳の検出があった。檜峯遺跡では奈良・平安時代の堅穴住居跡とともに奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。鳥取福蔵寺遺跡では縄文時代の堅穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の堅穴住居跡や鐵製造構が、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では縄文時代の堅穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の堅穴住居跡や細石刃文化石器群（旧石器）が検出されている。本遺跡を含めた五代南部工業団地遺跡群では平成12年度から16年度と18年度に渡り発掘調査し、縄文時代前期・中期の堅穴住居跡や土坑、古墳時代前期から後期の堅穴住居跡・方形周溝墓・周溝状造構・土坑、奈良・平安時代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット・溝跡・井戸跡等が検出され、中・近世では、地下式土坑・土坑・溝跡・井戸跡等が検出されている。

このように芳賀地区の遺跡を見ると、旧石器時代から縄文、古墳、奈良・平安、中・近世の遺構が検出され、ほとんどの時代にわたり人々の生活の痕跡が見られる地域である。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No	遺跡名	概要	No	遺跡名	概要
1	鳥取番城遺跡	本遺跡	25	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	縄文土坑・平安住居跡、他
2	芳賀北部団地遺跡	縄文、奈良・平安住居跡、勝沢城跡	26	五代深堀Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
3	芳賀西部団地遺跡	縄文住居跡、古墳	27	五代中原Ⅰ遺跡	縄文住居跡、古墳・平安住居跡
4	芳賀東部団地遺跡	縄文住居跡、古墳、 古墳～奈良・平安住居跡	28	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	縄文住居跡・土坑、平安住居跡
5	檜峯遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	29	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	縄文住居跡・土坑、 古墳～奈良・平安住居跡
6	小神明遺跡群Ⅰ	縄文住居跡、奈良・平安住居跡	30	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	縄文住居跡・土坑、古墳～奈良・平安住居跡
7	小神明遺跡群Ⅱ 九科遺跡	縄文住居跡（敷石）、古墳住居跡、 奈良・平安住居跡、近世埋葬施設	31	五代中原Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、他
8	小神明遺跡群Ⅲ 西田遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、円墳、 帆立貝式古墳	32	五代中原Ⅲ遺跡	古墳住居跡、土坑、柱穴、 五代街道Ⅰ遺跡
9	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	縄文住居跡、弥生、方形周溝墓、 古墳住居跡、環濠（中世）	33	五代街道Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、平安住居跡
10	倉本遺跡	弥生住居跡、環濠（戰國時代以降）	34	五代街道Ⅲ遺跡	縄文土坑、他
11	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	古墳住居跡	35	五代竹花Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
12	芳賀北曲輪遺跡	縄文住居跡、古墳	36	五代木福Ⅲ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
13	芳賀北原遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡	37	五代木福Ⅳ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
14	五代檜峯遺跡	古墳住居跡	38	五代深堀Ⅲ遺跡	縄文住居跡・土坑、 古墳～奈良・平安住居跡
15	鳥取東原遺跡	古墳住居跡、近世埋葬施設	39	五代伊勢宮遺跡Ⅰ	縄文住居跡・土坑、 古墳～奈良・平安住居跡
16	鳥取福蔵寺遺跡	縄文住居跡、 古墳～奈良・平安住居跡	40	新田塚古墳	円墳
17	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	旧石器（細石刃文化石器群）、縄文 住居跡、古墳～奈良・平安住居跡	41	檜峯古墳	円墳
18	五代江戸屋敷遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他	42	桂正田稻塚古墳	円墳か
19	五代木福Ⅰ遺跡	縄文・古墳住居跡、奈良・平安住居跡	43	東公園古墳	墳墓
20	五代木福Ⅱ遺跡	縄文配石造構、 古墳～奈良・平安住居跡	44	オブ塚古墳	前方後円墳
21	五代竹花遺跡	縄文住居跡、 古墳～奈良・平安住居跡	45	オブ塚西古墳	墳丘無
22	五代深堀Ⅰ遺跡	縄文住居跡、平安住居跡	46	勝沢城跡	中世
23	五代伊勢宮Ⅰ遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡、他	47	懶城跡	中世
24	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、奈良住居跡	48	小坂子城跡	中世
25	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	古墳住居跡、 奈良・平安住居跡	49	兔替戸の砦跡	中世
26	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	鳥取の砦跡	50	小坂子要害城跡	中世
27	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	鳥取の砦跡	51	鳥取の砦跡	中世
28	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	上泉城跡	52	小神明の砦跡	中世



第2図 周辺遺跡図

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査実施に際しては、グリッドを西から東へX 1、X 2、X 3、…、北から南へY 1、Y 2、Y 3、…を基本として（グリッド原点X 0、Y 0は、日本測地系 座標値X = 46,924.000、Y = -64,960.000）調査区域に4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は南側の道路を隔てた芳賀小学校の屋上にある2級基準点（4）からの基準標高に基づき測設した。

図面作成は、平面図をトランシット、断面図を造り方による細部測量で作図を行った。また、遺構等の写真撮影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

2 調査経過

調査は、前橋市教育委員会の内部組織である調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。平成19年8月8日より現地調査テント設営、機械及び資材を搬入した。8月10日、調査範囲の確認を調査団業務監督員と調査区域や注意事項の確認を行い、重機により調査団業務監督員の指導を得て表土層掘削を行うとともにジョレン掛精査により遺構確認を行った。8月17日から溝跡、土坑の覆土除去作業を開始し、グリッド杭、水準点測設を行い遺構図面作製作業を進め9月4日に終了し、9月10日調査団の検査を受け、9月11日に調査が終了し、9月13日埋め戻し作業を完了した。

IV 層序

本遺跡の基本土層は、W-1号溝の中央付近の西壁部分をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第3図に示したとおりである。

I=161.000m	I	I. 盛土（碎石）
	II	II. 明黄褐色土層 中継粘 As-YPを含む
	III	III. 明黄褐色土層 中継粘 As-SPを含む
	IV	IV. 明黄褐色土層 弱継中粘 As-BPを含む
	V	V. 明黄褐色粘質土層 強継粘 As-BPを含む
I=160.000m	VI	VI. 黄褐色粘質土層 強継粘 ATを含む
	VII	VII. 鈍い黄褐色粘質土層 強継粘（暗色帯）
	VIII	VIII. 黄褐色粘質土層 強継粘 灰白色軽石粒を含む

*As-YP：浅間板鼻 黄色軽石（1.3～1.4万年前）
*As-SP：浅間 白糸軽石（1.5万年前）
*As-BP：浅間板鼻 褐色軽石（1.6～2.1万年前）
*AT：姶良Tn火山灰（2.1～2.2万年前）

第3図 基本土層断面図

V 検出された遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 土坑〔第5・6図、図版1〕

縄文時代の土坑を6基検出した。形状は、袋状を呈する土坑が1基（D-1）で、W-1号溝により上端を壊されている。D-2～D-6は建物建築工事の際に搅乱を受け形状や規模を推定不可能なものも検出した。また、D-3～D-6は重複して検出し、土器を伴う土坑は多く検出したが、完形や完形に近い土器を出土した土坑はなく、時期は縄文時代前期であった。なお、各縄文土坑の計測値は第2表にまとめた。

第2表 土坑（縄文時代）計測表

（ ）推定値、〔 〕現存値

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模(cm)		遺 物			備 考 (重複、その他)	
		平 面	断 面	長 び	短 び	深 さ	土 器	土 器 片		
D-1	X 1・2, Y 4・5	円形	袋状	(115)	(115)	[55]	3	21	1	W-1 重複
D-2	X 3, Y 4	円形	(皿状)	(90)	(90)	[14]	1	15	—	搅乱
D-3	X 3, Y 3・4	円形	(皿状)	[114]	[112]	[32]	1	14	—	D-4, 5 重複・搅乱
D-4	X 3, Y 3	不整形	不明	[70]	[52]	[26]	—	3	—	D-3, 5 重複
D-5	X 3・4, Y 3・4	円形	不明	[184]	[183]	[8]	1	1	—	D-3, 4, 6 重複・搅乱
D-6	X 4, Y 4	円形	不明	(105)	(105)	[6]	—	—	—	D-5 重複・搅乱

2 中世以降の遺構と遺物

(1) 溝 跡

W-1号溝〔第7図、図版1〕

X 0～5, Y 0～5グリッドに位置する。規模は検出長30.75m、上端幅255～320cm、下段幅25～67cm、下端幅11～24cm、深さ156～252cmで薺研状の掘り込みで北東から南西へやや湾曲し走行する。溝底の標高は158.04～159.69mで、勾配は7.5%であった。断面から道路遺構で見られるような硬化面ではなく、いっきに埋め戻されており溝の底に所々砂礫が堆積していた。また、溝に沿って柵跡など検出されなかった。時期は中世以降である。遺物は縄文土器の小片、土師器の小片、土製鍋、板碑と思われる練泥片岩の破片など数点出土した。

W-2号溝〔第7図、図版1〕

X 3, Y 3～5グリッドに位置する。規模は検出長7.31m、上幅0.70～1.00m、下幅22～48cm、深さ8～14

cmで皿状の掘り込みで北から南へほぼ直線的に走行する。溝底の標高は160.72~160.86mで、勾配は1.9%を測る。硬く締まった土層は検出せざりきっと埋まつた様子が見られ、道路として使用した形跡はなく、砂礫の堆積もない。時期は不明である。遺物は出土しなかつた。

(2) 土 坑

縄文時代以外の土坑は、調査区全体で1基検出した。時期は特定できなかつた。なお、土坑の計測値は第3表土坑計測表にまとめた。

第3表 土坑計測表

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模(cm)			遺 物			備 考 (重複、その他)
		平 面	断 面	長 床	短 床	深 さ	土器	土器片	石器	
D-7	X 2, Y 4	円形	皿状	[220]	[75]	25	—	—	—	W-1 重複

[] は現存値を示す

3 ま と め

本遺跡の北側に隣接する芳賀北部団地遺跡や南東側の芳賀東部団地遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代から中・近世にわたる遺構が検出され、遺物も出土している。本遺跡では、縄文時代前期の土坑と中世の溝跡が検出された。

調査地は、旧芳賀村役場（大正7年建設）に始まり前橋市と合併した後、芳賀公民館（昭和33年）として平成2年まで使用し、数次に渡る増改築により遺構上層部を削り取られている。また、住宅団地建設による道路拡幅工事などにより遺構を壊されており、芳賀北部・東部団地遺跡で検出された各時代の住居跡など存在した可能性がある。

(1) 縄文時代

本遺跡では、縄文時代の土坑6基を検出した。

D-1号土坑はW-1号溝の縁に検出され、前述のように搅乱されており上端の規模は不明であるが、形状は上端から底に行くにしたがい膨らんだ形の袋状の土坑と思われる。遺物は、上層から欠損した丸い扁平形をした敲石が1点と平らに加工されているが割れて欠損している石1点が大型の自然石1点と共に出土し、その下から土器が出土した。潰された土器は完形にならなかったが深鉢を2点確認できた。縄文時代前期前半の黒浜式と思われる。また、出土した遺物の中には流れ込んだものと思われる関山式土器の小片を数点出土している。D-2号土坑も上端が削り取られ、公民館改築工事の建物基礎によりほぼ半分が搅乱されおり規模および形状を確定できなかつたが、深鉢を1点出土した。完形にならなかつたが縄文時代前期前半の黒浜式と思われる。D-3～6号土坑は重複して検出した。公民館改築による搅乱で検出状況は悪かつたが、土層断面から新旧関係を確認できた。古いものからD-4→D-3→D-5で、D-6→D-5と思われる。遺物は、D-3号土坑から縄文土器の小片を数点出土し、D-5号土坑から縄文土器の小片を数点と深鉢1点が出土した。いずれも黒浜式土器と思われる。近隣遺跡の住居跡の傾向から、本遺跡の北側にある芳賀北部団地遺跡では、縄文時代前期の住居跡は稀薄で中期の住居跡が多く検出されている。南東側にある

る芳賀東部団地遺跡と南側の芳賀西部団地遺跡では、縄文時代前期の住居跡が多く検出されている。本遺跡は縄文時代の前期の集落域と中期の集落域の境界と推測される。

(2) 中世以降

芳賀地区には多くの城跡や砦跡がある。前橋市史によると、勝沢町字番城に勝沢城跡があり、字名のようにこの城は、嶺城の番城、すなわち、支城であったと思われる。本遺跡から北へ1700mに嶺城跡、250m北側に勝沢城の本丸跡が存在したとされている。芳賀村誌には、番城は勝沢町にあり、建久元年（西暦1190年）鎌倉幕府の臣、藤沢次郎清近（清報）の居城。「清近は、射術に秀で、源頼朝の隔心ない者として抜擢されて戦功があった。」とあり、遺構は室町時代以後の城とある。勝沢城は、鎌倉時代に始まり庵城の時期は確認されてはいないが、室町時代以降の戦乱の世の中を通り抜けてきたと思われる。

本遺跡で検出されたW-1号溝は、薬研状で北東から南西に走行し、北西側へ湾曲し掘られている。上幅が3mほどで、深さ1.6mから2.5mを測る。溝の縁辺部に柵を巡らせた跡は確認できなかった。また、覆土は徐々に埋まつたのではなく、いっきに埋め戻された様相であった。遺物は縄文時代から中世の遺物を出土しているが出土量が少い。中世の遺物としては、軟質陶器の内耳鍋が出土した。そのほか、板碑と思われる縁泥片岩の破片も出土している。出土した遺物から15世紀頃のものと思われ、勝沢城に関連する堀と考えられる。しかし、本遺構は、本丸から250mほどの距離があり、城の堀とするなら嶺城の規模に匹敵する大きな城となる。また、掘られている方向や湾曲している状況など、地形や防御策によりこのような堀が他の城跡にないことはないが、勝沢城が嶺城の支城であったことや堀の走行状況から考え、城を取り巻き防御する堀であったのか疑問である。今回調査した溝の先がどのような様相を呈するかを発掘することは不可能であるが、近隣の調査により解明されることを願う。

第4表 遺物観察表（縄文時代）

法量は①口径②底径③胴部最大④高を表し、単位はcmである。また、()は推定値、〔 〕は現存値を表す。

遺物番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④道存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備考
D-1-1	No.4	深鉢	①14.8 ②[12.8]	①織部②良好 ③明褐色④1/2	全面RL・LRの羽状彫文。平口縁。穿孔。	底部を欠く黒浜
D-1-2	No.4	深鉢	①(35.4) ④[36.2]	①織部②良好 ③明褐色④口～胴	全面RL・LRの羽状彫文。頸部ですばまり口縁にかけて外反。平口縁。	黒浜
D-1-3	一括	鉢	④[3.2]	①織部②良好 ③黄褐色④刷	半截竹管による平行沈線。円形竹管による刺突。	開山か
D-2-1	No.1	深鉢	①(38.2) ④[36.1]	①織部②良好 ③黄褐色④口～胴	全面RL・LRの羽状彫文。細い波状口縁。胴部に僅かなくびれ。	黒浜
D-3-1	No.2	鉢	④[7.5]	①織部②良好 ③明褐色④口～胴	LRの斜彫文。平口縁。	黒浜
D-5-1	No.1	深鉢	①15.0 ④[13.0]	①織部②良好 ③明黄色④1/2	RLの斜彫文。平口縁。頸部から口縁にかけて内湾する。	底部を欠く黒浜

第5表 石器観察表

遺物番号	台帳番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 材	備 考
D-1-4	No.2	敲石	13.3	[9.3]	5.4	720	安山岩	先端部鋭き痕あり。 胴部磨り跡。欠損あり。

第6表 遺物観察表（中世以降）

法量は①口径②底径③胴部最大④高を表し、単位はcmである。また、()は推定値、〔 〕は現存値を表す。

遺物番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④道存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備 考
W-1-1	一括	軟質陶器内耳 鍋	①(38.4)②(27.4) ④[29.0]	①織部②良好 ③明褐色④1/6	器壁は薄く、器表は黒灰色。外面に保付着。口縁端部は平粗。口縁部下にびれ。体部外面窪なり。	15世紀

注) 遺物観察表の記載は以下の基準で行った。

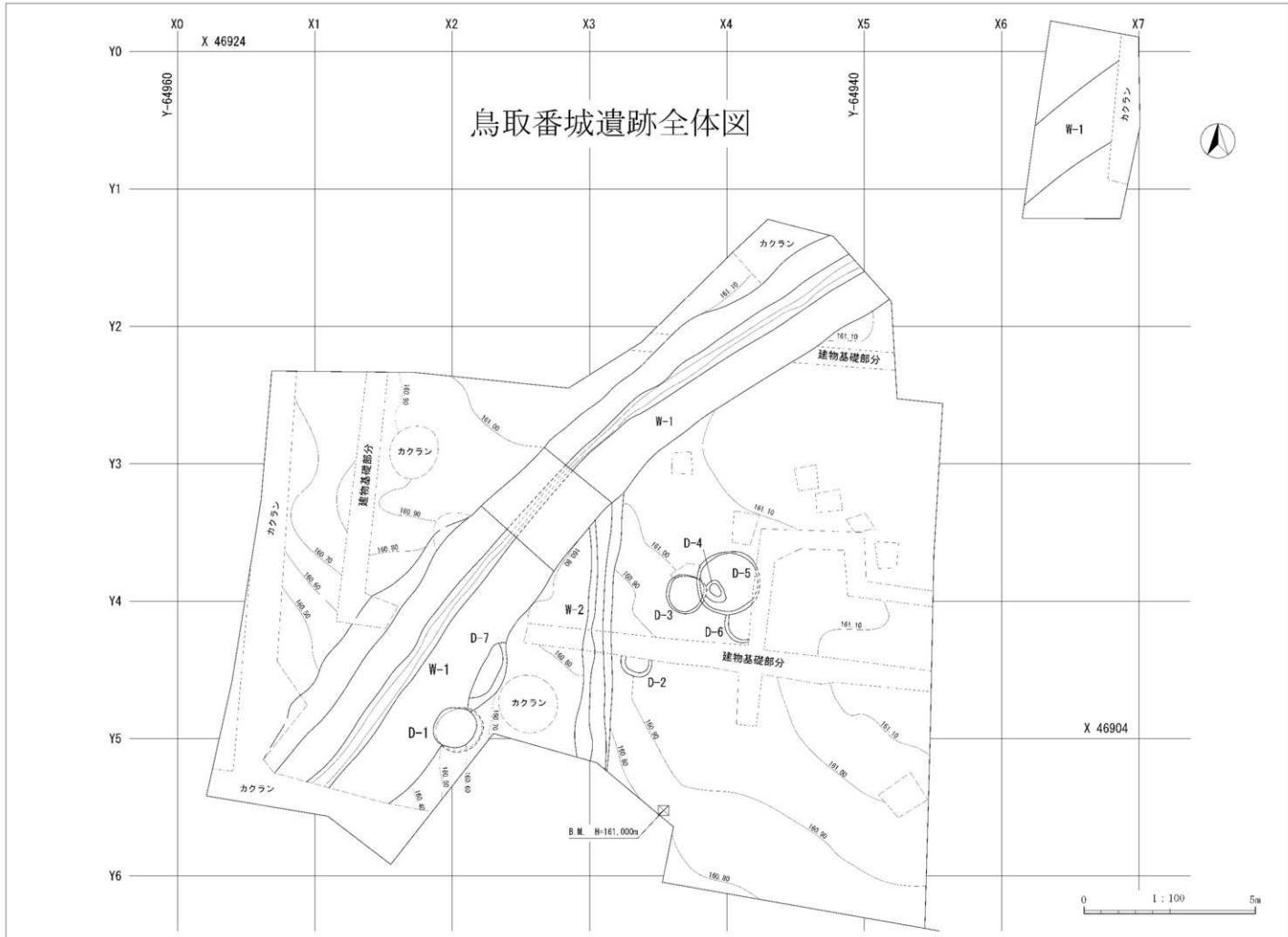
1. 胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

2. 焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。

3. 色調は、土器外面で観察し、色名は『新版標準土色表』(小山正忠・竹原秀雄1999)による。

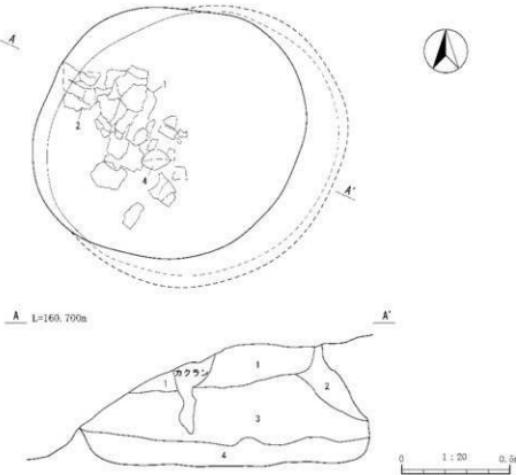
参考文献

- 小 神 明 遺 跡 群 1982 前橋市教育委員会
 小 神 明 遺 跡 群 II 1984 前橋市教育委員会
 小 神 明 遺 跡 群 IV 1986 前橋市教育委員会
 端 気 遺 跡 群 I 1982 前橋市教育委員会
 端 気 遺 跡 群 II 1983 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第1巻 1984 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第2巻 1988 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第3巻 1990 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第5巻 1994 前橋市教育委員会
 芳 買 北 原 遺 跡 1992 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五 代 深 堀 III 遺 跡 2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 図 説・前 橋 の 歴 史 1986 近藤義雄
 芳賀村誌・芳賀の町誌 1993 芳賀村誌改訂並びに町誌編纂委員会
 芳賀地区自治会連合会
 城館調査ハンドブック 1996 千田嘉博・小島道裕・前川 要

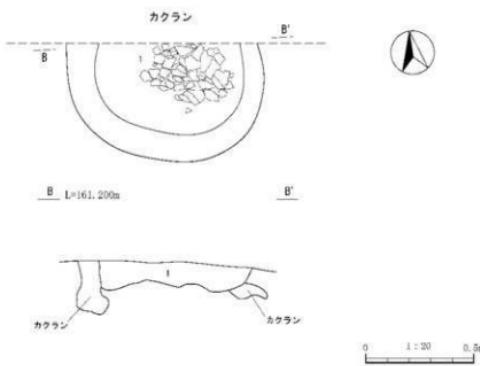


第4図 鳥取番城遺跡全体図

D-1

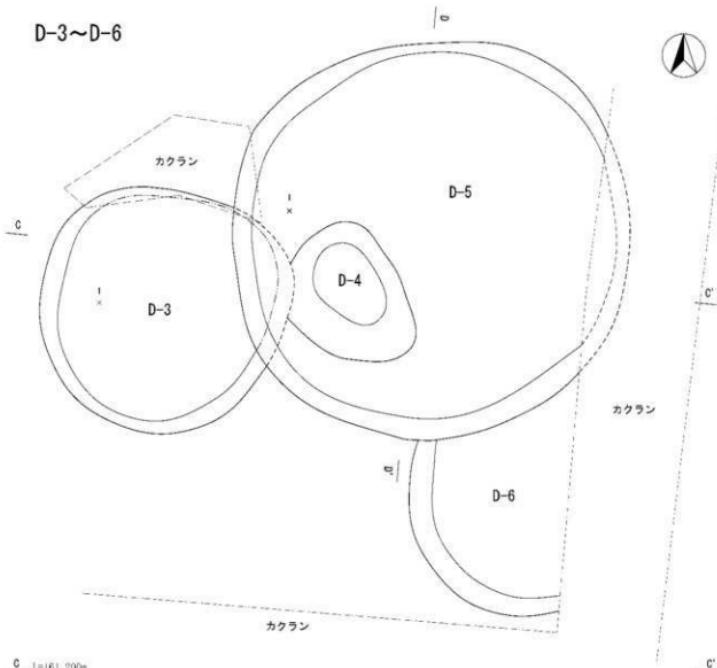


D-2

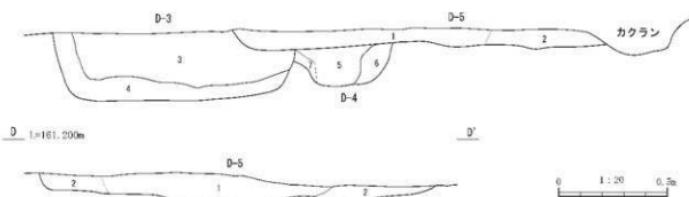


第5図 D-1・2号土坑

D-3～D-6



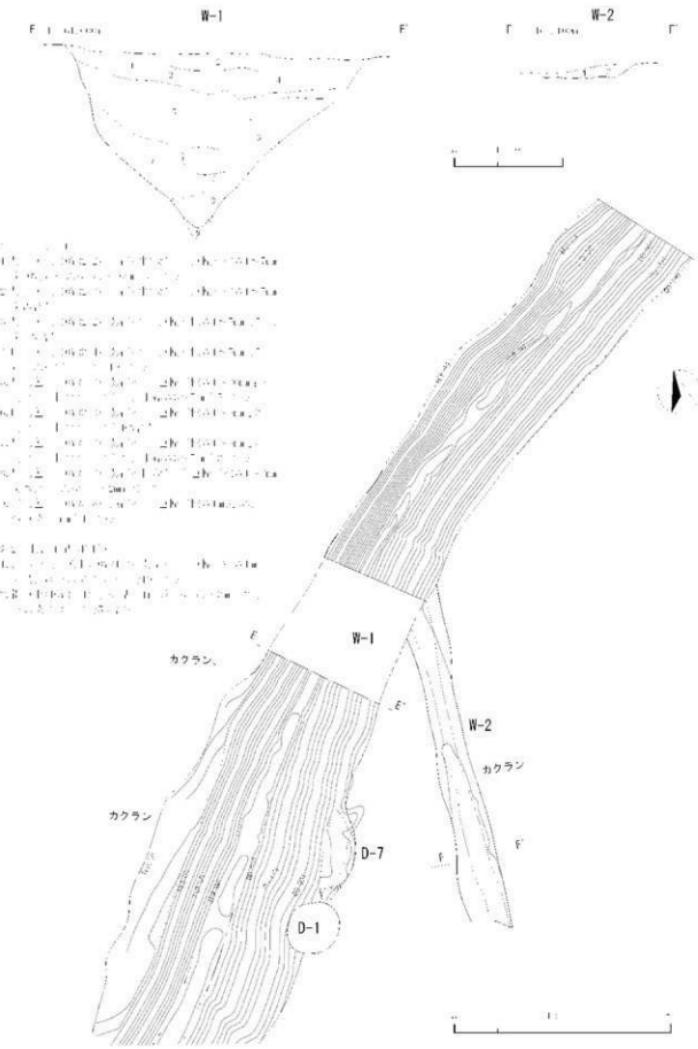
C C' L=161.200m



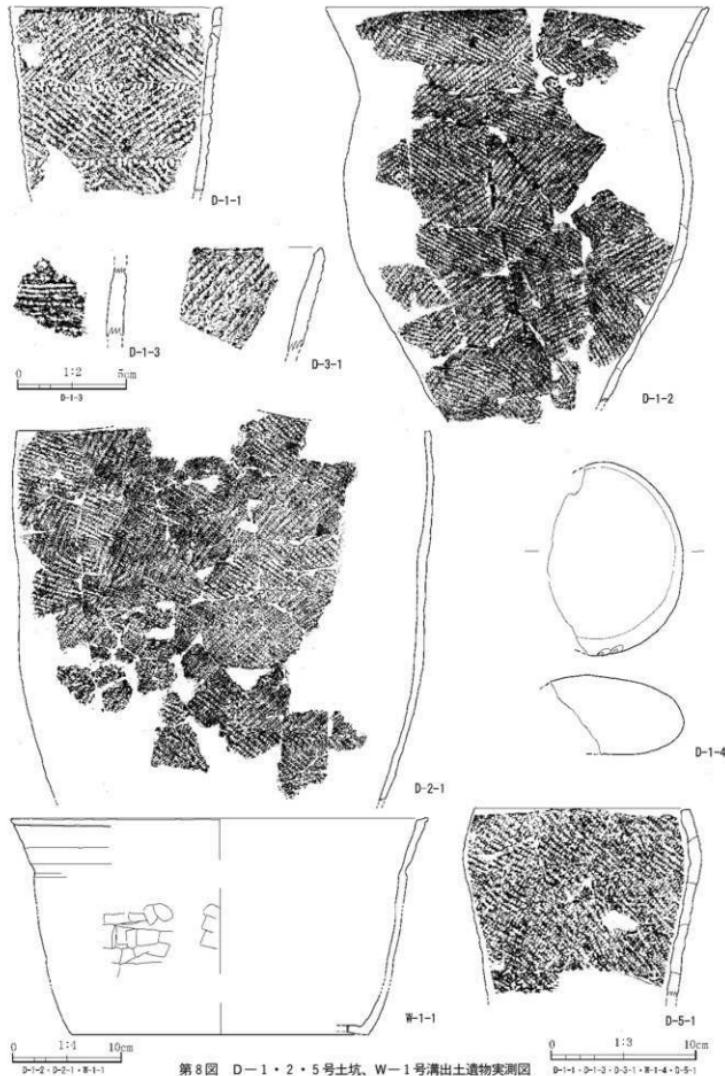
D D' L=161.200m

- D-3・4 土層津記 (C-C') (D-D')
1. 黄褐色土 (10YR3/1) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～5mmを10%、に多い黄褐色 (10YR1/3) を露造り状に30%、炭化物1%を含む。
 2. 棕色土 (10YR4/4) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～3mmを2%，ローム粒ブロックを5%含む。
 3. 黄褐色土 (10YR3/1) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～5mmを7%、に多い黄褐色 (10YR1/3) を露造り状に25%、炭化物粒を1%、橙色粒を微量含む。
 4. 棕褐色土 (10YR2/4) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～5mmを7%、に多い黄褐色 (10YR1/3) を露造り状に20%、ローム粒ブロックを3%含む。
 5. 黄褐色土 (10YR3/1) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～3mmを8%、に多い黄褐色 (10YR1/3) を露造り状に16%、炭化物粒と橙色粒を微量含む。
 6. 鮮い黄褐色土 (10YR4/3) 中綱岩粘 白色鮮石粒φ1～3mmを2%含む。
 7. 4层、ローム粒ブロックを多く含む。

第6図 D-3～6号土坑



第7図 W-1・2号溝跡



第8図 D-1・2・5号土坑、W-1号溝出土遺物実測図



鳥取番城遺跡全景（北から）



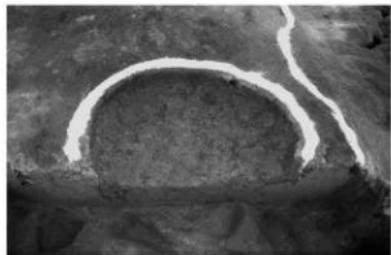
D-1号土坑遺物出土状況（北から）



D-1号土坑全景（南から）



D-2号土坑遺物出土状況（南から）



D-2号土坑全景（北から）



D-3~6号土坑全景（南から）

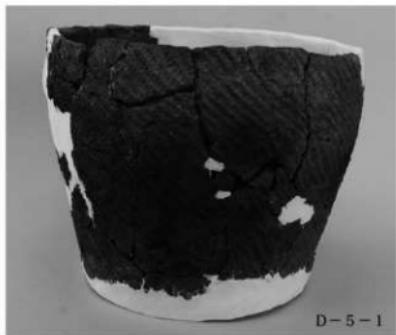
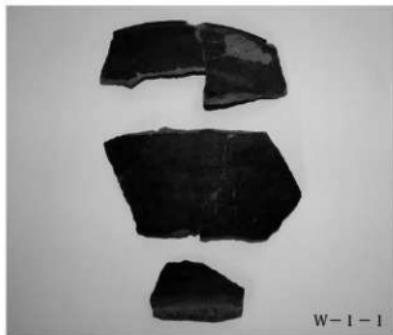
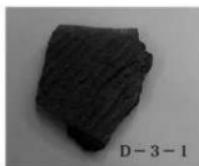
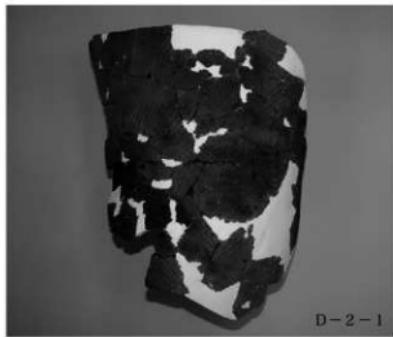
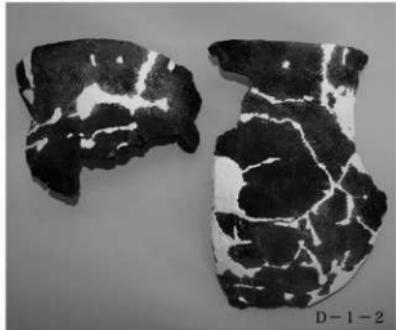
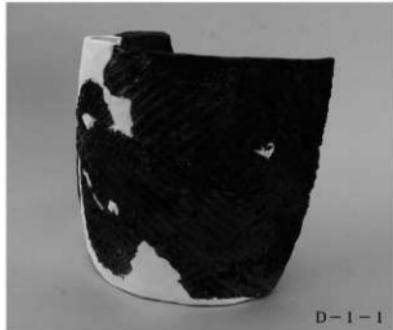


W-1号溝全景（南から）



W-2号溝全景（南から）

図版2



抄 錄

フリガナ	トトトリ バンジョウ イセキ
書名	鳥取番城遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 権田友寿・山口和宏（スナガ環境測設株式会社）
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2007年11月2日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コ 一 ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
鳥取番城遺跡	前橋市 鳥取町 410番1	10201	19C39	36°25'14"	139°06'32"	20070808 20071102	320m ²	市有地売却

所 収 遺 踪 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特記事項
鳥取番城遺跡		縄文時代 中世 不明	土 坑 溝 跡	6 基 1 条	縄文土器・石器 調文、土師・須恵器 軟質陶器	
			土 坑 溝 跡	1 基 1 条	縄文、土師・須恵器 なし	

鳥取番城遺跡

2007年10月25日 印刷
2007年11月2日 発行

発 行

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
スナガ環境測設株式会社
朝日印刷工業株式会社

編 集
印 刷